

あしとら



(財)日本野鳥の会三重県支部
1993年8月 第2号

河芸町田中川河口干潟の問題について

武田恵世

1. 伊勢湾の干潟の現状

伊勢湾の干潟は1950年代には約40ヶ所ありましたが、現在では、大部分が埋め立てなどの開発や海岸浸蝕により消滅し、半分以上の15ヶ所にまで減少しています。図1は伊勢湾の主な干潟を示し、白丸は消滅した干潟を表しています。特に、大規模な泥質干潟は、名古屋港の藤前干潟、三重県の田中川河口、榑田川河口などにわずかに残すのみとなっています。この中で砂丘に囲まれた典型的な潟状の泥質干潟が残されているのは、松阪市の榑田川河口と河芸町の田中川河口干潟のみでした。

2. 田中川河口干潟

田中川河口干潟は、砂丘に囲まれた泥質干潟で大潮の干潮時には潟状部分全体と前浜が約300m沖合いまで干出します。アサリ、ヤマトシジミ、イソシジミ、オキシジミ、オオノガイ、ニホンスナモグリ、ゴカイなどがきわめて多く、海側から、アサリ、イソシジミ、ヤマトシジミが優占する生物層でした。また、アシ原が多く、ハマサジ、ハママツナ、アキノミチヤナギなどの塩沼植物群落がよく発達していました。

1970年から1990年の調査で生息を確認した野鳥は110種類で、この内シギチドリ類が81種類で、ホウロクシギ、チュウシャクシギなど比較的大型で、カニ類を多く食べる種類が多いのが特徴でした。なお、砂丘部分は、ハマボウフウ、コウボウムギ、ハマゴウなどの海浜植物群落が多く、三重県の鳥であるシロチドリの数少ない繁殖地の内の代表的な場所です。

ゴカイなどの底生生物の生息密度は1㎡当たり平均約5,200個体、チゴガニは1,000個体、アシハラガニは48個体、ヤマトオサガニは640個体、ウミニナは1,920個体ときわめて多く、また、オオノガイなどの伊勢湾の他の干潟では少なくなってしまう種類も多数生息していました。

3. リゾート開発

ところがバブル経済によるリゾートブームに乗って、河芸町ではこの干潟にリゾートマリナーを計画し、1991年4月より第3セクターを造って工事を進めています。この工事は第3セクターでありながら、補助金獲得のため、河川改修工事の公共事業として行われております。そのため、沿岸流の変化による海岸浸蝕や、河川による土砂の堆積の危険を無視して、河口をマリナーの出入口にするため、河口を大きく拡張し、塩水進入の危険を犯して、現在深さ0.5mである河口を、4.5mまでの浚渫し、ヨットやクルーザーが交互に航行できる工事を、河川改修と称して行いました。

その際、町長は「田中川右岸つまり南側の干潟は完全に残す」と宣言し、また、三重県河川課も我々の指摘を受けて右岸の干潟を石積み護岸で囲み、土砂の流出を防止する工事からとりかかりました。

4. 工事による生物の絶滅

しかし、工事が始まるとまもなく、干潟の入り口に工事用の仮設道路が設置され、干潟への水の出入りは小さなパイプ5本のみとなり、潮の干満が著しく減少させられ、大潮の最大干潮時でもほとんど干出しなくなり、奥部は満潮時でも水没しなくなってしまいました。

そのため、干潟内部には淡水が貯留し、塩分濃度は著しく減少し、ほぼ淡水の状態となりました。工事以前は、晴天3日後の大潮の最大干潮時で、外海の塩分濃度が3%の時、干潟中央部の塩分濃度は1.96%で、奥部は0.45%でしたが、工事後は中央部で0.2%、奥部で0.06%となりました。我々の指摘や抗議にもかかわらずこうした状態が1991年の5月から9月の約4ヶ月に渡って放置されました。

その後、再三の抗議と新聞報道により、潮の干満は急速確保されましたが、翌年の1992年1月から4月にかけての4ヶ月間また潮の干満が不十分となりました。また、仮設道路建設に使用された粒径の大きい土砂が干潟へ大量に流入し、地盤が硬化し、粒子が荒くなった

ことにより、仮設道路から約10mはほとんど干潟の生物が見られなくなりました。1992年5月31日に大規模な調査を行いました。生息数が激減していました。可能な限り多くの場所を掘り返し検索しました。

工事前1990年3月25日と、工事後の1992年5月31日の、干潟の主要部分の生息状況をくらべますと、図のように、非常に高密度に生息していたアサリ、ヤマトシジミ、シオフキガイ、クチバガイ、オチバガイ、ホトトギスガイ、カガミガイ、オオノガイの二枚貝類8種は完全に全滅し、イソシジミ、オキシジミ、ソトオリガイ、サビシラトリガイ、バカガイ、マガキの二枚貝類6種とアラムシロガイは極度に激減し、最も多い種類であったヤマトオサガニは干潟奥部にわずかに残るのみとなり、高密度に生息していたニホンスナモグリやゴカイ類も著しく激減しました。

一方、ウミニナ、コメツキガニは半減したにとどまり、ハマガニとアシハラガニ、イトゴカイは少し減少したのみにとどまりました。魚類は、干潟の途絶期にはマハゼ、アベハゼ、ボラの大量死が見られ、翌年の調査によっても、マハゼ、アベハゼ、ボラ、コノシロのいずれもが稚魚以外はほとんど見られなくなり、生息密度もおよそ1/10以下となっていました。聞き取り調査によっても、「マハゼがさっぱり釣れなくなった。今年はウナギが1匹も採れない」との証言が得られました。

すなわち移動能力が比較的乏しい二枚貝類はほとんど全滅し、イソシジミ、オキシジミ、ソトオリガイ、サビシラトリガイ、バカガイ、マガキの6種類は長期の塩分濃度低下には若干強いと考えられます。また、十脚目、短尾下目、すなわちカニ類は干潟の泥質部分を主な生活の場としているヤマトオサガニがほとんど全滅し、チゴガニが激減し、塩分濃度の高い部分に生息するコブシガニとイソガニは激減し、砂質部分に生息するコメツキガニは半減にとどまったと考えられます。また、移動能力が大きいアシハラガニとハマガニはわずかに減少したにとどまったと考えられます。ウミニナは比較的塩分濃度低下には強いようで、ニホンスナモグリは完全な全滅は免れた

ものの塩分濃度低下には弱いようでした。

5. 生態学会で発表

以上のように、今回の事件は生物の塩分濃度変化などへの耐性の違いを示す貴重なデータが得られ、干潟の生態系維持が容易ではないことを示す大きな教訓が得られました。長良川河口堰をはじめ、現在各地で干潟生態系への影響を軽視した大規模工事が進行中であり、干潟の復元事業も行われていますが、よほど慎重に影響を評価しつつ行わなければならないことを示しています。

そこでこの件について、4月1~4日に松江で行われた日本生態学会総会で発表してきました。「これはひどい。すさまじい破壊だ」と言う声が多く上がり、「海浜植物はこれで大丈夫なのか」、「当局は干潟への水の出入りの計算をしていなかったのか」などの質問がありました。

6. 今後は？

河芸町の工事は我々の警告を無視して現在も続けられており、今度は河口の浚渫、拡張により干潟内部への海水の供給が増加しています。そのため、塩分濃度低下による影響は少なかったアシハラガニの激減が始まっています。当局は、河川改修に絡めたリゾート工事を当初の計画通りに進め、干潟環境も復元するとし、検討委員会も開いていますが、両方の共存はもはや不可能と言わざるを得ません。今後この干潟の生態系はさらに激変する考えられます。我々は今後とも監視を続け、当局に、河口に港を造ることの危険性や、維持管理の困難さ、工事によるシルトの影響、TBTなどの影響を指摘し、計画の中止を求め、また、干潟生態系の完全な復元を求めているところです。

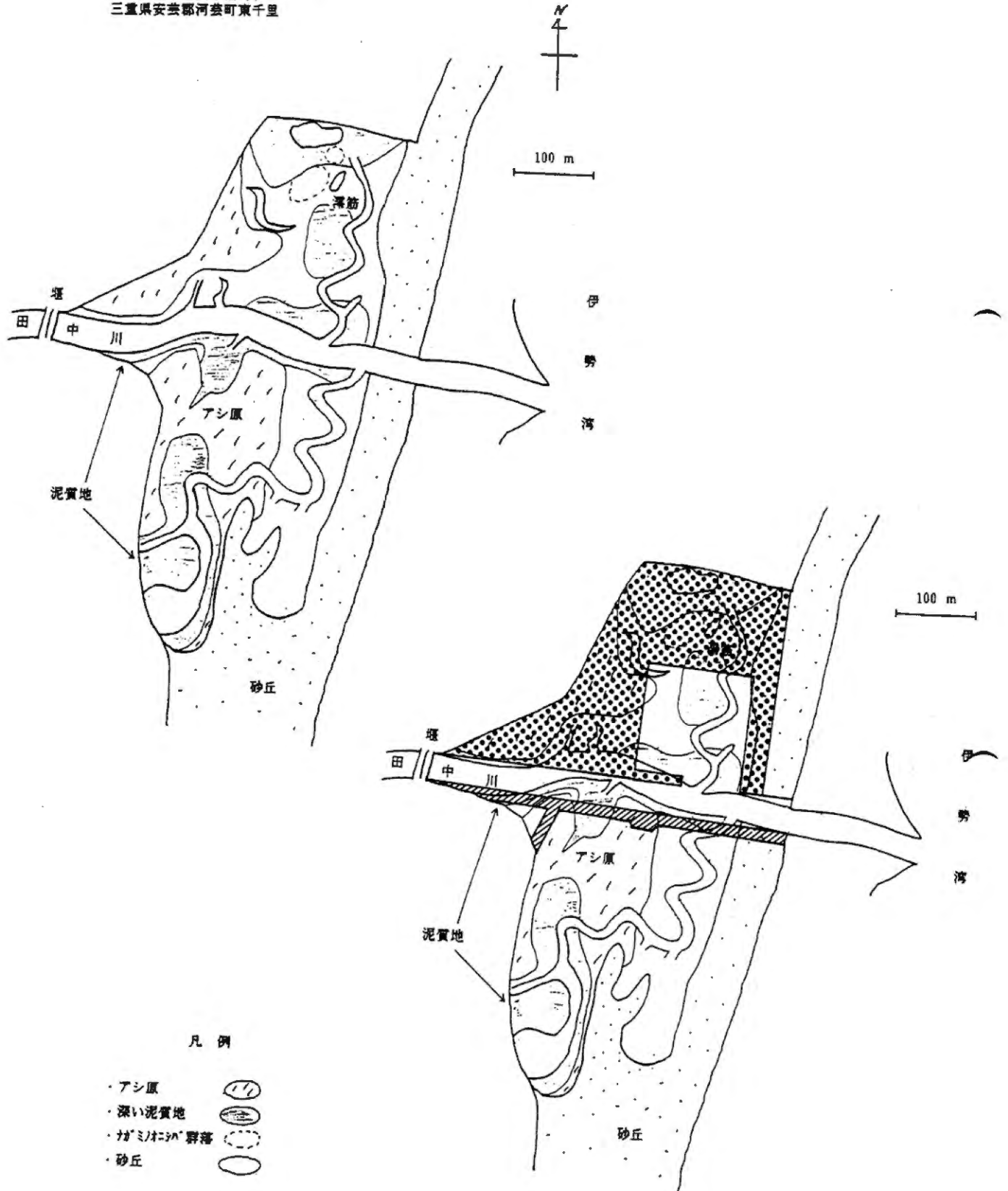
案の定、河口の浚渫と拡張により、河口堰に波がまともに当たるようになったために、新たに沖合いに堤防を伸ばす工事をはじめそうです。これにより本格的な海岸浸蝕と海洋生物への深刻な影響がはじまると予想されます。

(別表1) 生物の生息状況の変化

工事開始前(1990年3月25日)と工事後(1992年5月31日) (/平方メートル)

田中川河口干潟の図

(大潮の最大干潮時)
三重県安曇郡河芸町東千里



(1)海側干潟下部 1990/3/25 1992/5/31

二枚貝		
アサリ	1,600	0
オキシジミ	160	0.02
イソシジミ	960	0
ソトオリガイ	480	0
ホトトギスガイ	16,000	0
シオフキガイ	800	0
サビシラトリガイ	80	0
オチバガイ	160	0
クチバガイ	224	0
オオノガイ	4.8	0
バカガイ	560	0.01
巻き貝類		
ウミニナ	576	240
カニ類		
ヤマトオサガニ	480	0
チゴガニ	928	352
コメツキガニ	528	224
アシハラガニ	48	32
エビ類		
ニホンスナモグリ	160	0

(2)海側干潟中部

アサリ	640	0
ヤマトシジミ	1,600	0
オキシジミ	160	0
イソシジミ	800	0
ソトオリガイ	480	0
ホトトギスガイ	800	0
サビシラトリガイ	80	0.16
ウミニナ	480	272
ヤマトオサガニ	480	0
チゴガニ	384	320
アシハラガニ	48	48
ニホンスナモグリ	320	4.8

(3)海側上部

ヤマトシジミ	720	0
イソシジミ	800	0
ウミニナ	480	352
ヤマトオサガニ	480	0
チゴガニ	928	336
コメツキガニ	224	112
アシハラガニ	48	48

7. 調査

昨年末、河芸町から本会に干潟調査の依頼がありました。今後の教訓にするためにもし

っかり調査して後世に伝えたいと思っています。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

カラスのねぐら調査報告

平井正志

○安濃町周辺のカラスのねぐら

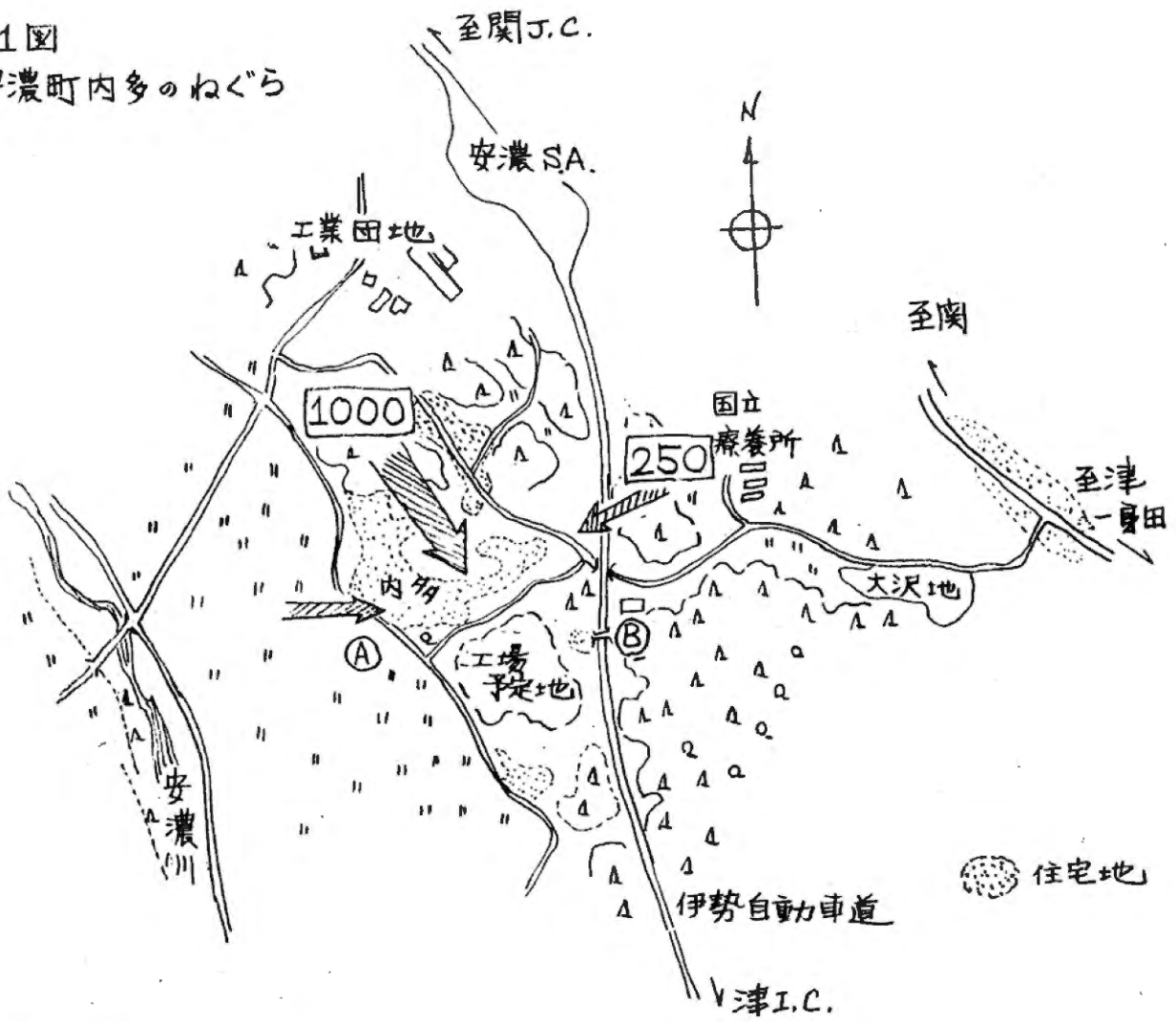
1993年1月および2月に安濃町内多および津市片田のねぐらを調査した。観察は同一条件での飛来を比べるため、降雨がなく、風の弱い日に行った。内多では16:10から、この時点でねぐら付近にすでに結集しているカラスの数を数えた。片田では16:50ないし17:00から観察を始め、内多では17:30ないし17:40、片田では17:50ないし18:00、カラスがほとんど飛来しなくなったのを確認して観察を終えた。ねぐらに飛来した個体数はおよそ10分ごとに記録し、グラフからその半数が飛来した時刻を読み取った。

○内多のねぐら(第1図)

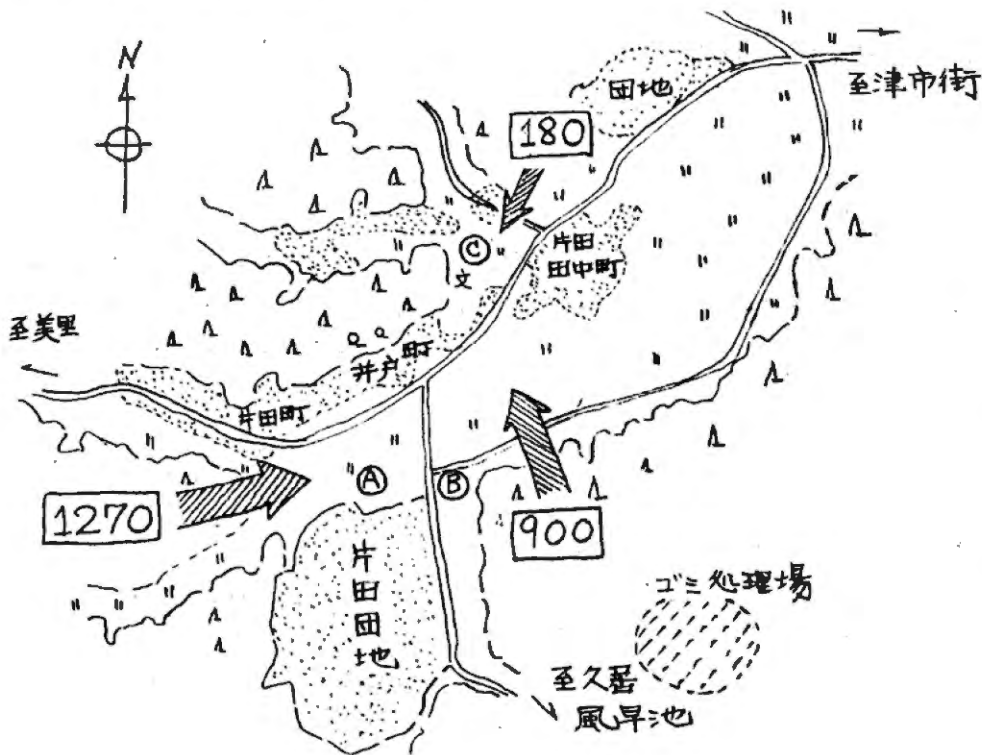
A地点からの観察では主として北西から飛来する個体が観察され、小数が西から水田を経て飛来した。南から飛来する個体はごくまれであった。伊勢自動車道沿いのB地点からの観察では主として東から飛来する個体が観察されたが、A地点からの観察に比べて著しく少なかった。伊勢自動車道沿いに西側を南下する個体はいくらか観察できたが、A地点からの観察と重複すると推定されたので記録しなかった。東側を南下する個体は極めてわずかであった。

以上の観察結果より、ねぐらに集結する個体の大多数、1,000羽内外は北西から内多の

第1図
安濃町内多のねぐら



第2図 津市片田のねぐら



集落上空を経て飛来し、250羽内外が東から伊勢自動車道を横断して飛来すると推定された。南から飛来する個体および伊勢自動車道東側を南下する個体が、ごく少ないことから両地点から重複して観察された個体はごくわずかであろう。したがって結集する個体総数は、観察当初すでに集結している個体を加えて、合計約1,500羽と推定された。南および東から飛来する個体が少ないが片田のねぐらとの競合であろう。

○片田のねぐら（第2図）

A地点で観察された個体は西および南西から飛来したので、A地点の北側を通過する個体を計数した。A地点より南の片田団地上空を通過する個体については、B地点での計数と重なるおそれがあるので除外した。この個体は40羽以下と推定される。B地点では主として南より飛来し、B地点の東側を通過する個体を計数した。C地点では北および東から飛来する個体を計数した。田中町南側の水田を東から飛来する個体はごくわずかであったので、B地点での計数と重複するものはごくわずかであると推定された。また片田町北側の山林上を西から飛来するものは若干観察されたが、A地点での観察と重複する恐れがあるので除外した。

3地点での観察個体数を合計すると約2,350羽になる。南から飛来する個体の相当部分はこのねぐらの南東2kmにあるゴミ処理場で生活しているものと考えられる。北ないし東から飛来する個体が少ないが、安濃町内多のねぐらとの競合であろう。

○まとめ

上記2つのねぐらに飛来する個体総数は3,850羽となる。四日市市西部には別のねぐらが存在するので、ここで調査した2つのねぐらに飛来するカラスは、鈴鹿市の一部、亀山市、関町、安芸郡3町1村、津市、久居市、白山町、三雲町、香良洲町等に生息するものと考えられる。このうち西部の山間地からは2つのねぐらを合計すると少なくとも2,200羽にのぼり、カラス個体の大半がこれら山間地で生息していることになる。津及び久居市街に生息する個体はこれらのカラスのうち東、ないし南から飛来するもの計1,330羽のうち、ゴミ処理場に生息するものを除いたものになり、おそらく500羽程度であろう。今回観察した降雨が少なく風が弱い条件下でカラスがねぐらに飛来する時刻はほぼ一定しており、日没前後に半数飛来時刻が観察された。

○第1表 安濃町内多におけるカラスねぐらの観察

観察日時	時間	観察地点	天候	日没	観察開始時におけるねぐら付近の現存数	飛来総数	半数飛来時刻 注(1)
1993.1.23	16:10-17:30	A	曇	17:11	20注(2)	1093	16:56
1993.1.24	16:10-17:30	A	曇	17:12	247	994	17:04
1993.1.25	16:10-17:35	B	曇	17:13	217	223	17:00
1993.1.26	16:10-17:40	B	快晴	17:14	312	277	17:08

注(1)観察時間中に飛来した個体数（ねぐらに観察当初からいた個体数を除く）の1/2が飛来した時刻。

注(2)1月23日のねぐらの現存数についてはA地点から観察しただけであり、相当の観察漏れがあると推定される。

○第2表

観察日時	時間	観察地点	天候	日没	観察開始時における ねぐら付近の現存数	飛来 総数	半数飛 来時刻
1993.2.6	16:50-17:50	A	快晴	17:20	14	1255	17:41
1993.2.6	17:00-18:00	B	快晴	17:25	17	903	17:32
1993.2.13	16:50-18:00	C	快晴	17:32	--	178	17:32
1993.2.14	16:50-18:00	A	曇(やや風)	17:33	42	1294	17:24

志摩半島のタカ渡り

吉居清、吉居瑞穂、橋本祐子

毎年9月下旬から10月上旬に伊良湖岬に集まったサシバを中心としたタカは、志摩半島のどこを通過して奈良県に入るのでしょうか？

三重野鳥の会では1980年代の初め頃から有志が調査を繰り返しましたが、実態がつかまませんでした。1982年に伊勢神宮外宮の南側をかなりのサシバが通ることが発見され、少し実態が分かってきました。



1985年10月6日、NHKが日本野鳥の会の協力を得て「全国渡り鳥情報」のラジオ番組を放送したのに合わせて三重野鳥の会でもこの調査に参加しながらサシバの渡りの本格的

調査を始めました。日本野鳥の会の一斉調査は1986～1988年に3回行われましたが、三重野鳥の会ではその後も50名を越える有志で調査を続けた結果、最近、渡りの様子がかかり分かってきました。今回、三重野鳥の会の解散に当たって1987～1992年に行なわれた調査結果を整理、分析し、報告書にまとめました。概要は次の通りです。

1. 上陸地点

伊良湖岬を出たタカは主に鳥羽湾の答志島と菅島に沿って進み、鳥羽市の小浜から今浦の間に上陸する。中でも菅島に沿って進んで安楽島(あらしま)に上陸するものが多い。従って、上陸の中心地は鳥羽市の安楽島付近である。

2. 内陸部

(1)北は伊勢神宮外宮の北側から五桂池、粥見…、南は賢島、五ヶ所浦、藤坂峠までの幅に広がって飛んでいる。しかし、五桂池から北、藤坂峠から南の流れは確認できていない。
(2)三重/奈良県境付近のコースは高見山から伯母ヶ峰に至る約25kmの幅に広がっている。

3. その他の内容

志摩半島内の縦と横の流れ、渡り時期のねぐら、気象条件とコース…など以上の内容は「志摩半島のタカ渡り」として42ページの報告書にまとめられています。1部は四日市の事務局に保管されていますが、ご希望の方にはコピー代と郵送料を合わせて合計750円の実費を出していたたければお送りいたします。

1993/04/20

連絡先:〒

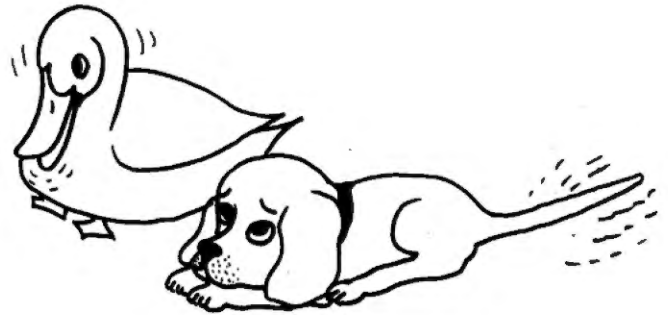
吉居瑞穂
TEL

わかったのかしら

A.S.

先日、ベランダでお布団を干していたときでした。近所のお宅で飼っている犬とアヒルがけんかを始めました。アヒルはただギャーギャー騒ぐだけですが、犬の方は吠えたり、鼻先をアヒルのおなかに当ててひっくり返そうとしたりしてました。その騒ぎに、その奥さんがとんで出てきて、間に割って入りました。それから、一匹と一羽に「仲良くしなさい」とか「けんかはいけません」とか、くどくどと言いつつ聞かせていました。それ以来、けんかは見ていませんので「わかったのかし

ら」と思っております。



一身田豊野東ノ池周辺の鳥

新谷宇一郎

東ノ池は津市の北端、河芸町との境に位置し古くから灌漑用に利用されてきた池であります。面積およそ700坪。周囲を雑木林、水田が取り囲んでおり今なお静かな環境にあります。昭和45年、県住宅公団が開発した豊野団地は池に隣接して津市側に位置しております。私は約20年前、自然環境の豊かな住宅地を津市近郊に探しておりましたが、東ノ池に隣接したこの団地の東の端っこが気に入りました。団地は池から5mばかり高台になっており、拙宅からは池全体を見おろすことが出来ます。以来、毎日曜日ごと、と言ってもその日曜日

も雑用などでしばしば抜けるわけですが、東ノ池周辺の野鳥を見てきました。年間を通じて住む鳥も有れば、季節ごとに住みわける鳥もあります。当初見られた鳥が最近は見られなくなった鳥もおります。時にはこんな所にも現れるのかと驚かされる鳥も見られます。以下に季節ごとに見られる鳥をウエットモアの分類に従って表にしてみました。見られる季節を実線で示し、たまにしか見られない鳥は観察年月日を記入してみました。また初認、終認の分かるものは最近の平均月日を入れました。

	春 (3-5月)	夏 (6-8月)	秋 (9-11月)	冬 (12-2月)
カイツブリ	-----			
カワ	-----			
ヨシゴイ		-----		
ゴイサギ		(5/4	-----	11/2)
アマサギ		-----		
コサギ	-----			
チュウサギ		-----		
ダイサギ		-----		
アサギ	-----			
マガモ	-----	4/19)		

カルカモ	_____	
コカモ	_____3/29)	_____
ヒトリカモ	_____	_____
ハシビロカモ	_____	_____
キンクロハシロ	_____4/19)	_____
ホシハシロ	_____4/19)	_____
トビ	_____	_____
オオタカ ?	S60/8/20	
サシハ	_____9/6)	
コシユケイ	_____	_____
ヤマドリ	_____	_____
キシ	_____	_____
バン	昭和50年代の夏にはよく見られましたが最近は見られません。	
オオバン	_____11/2)	
ケリ	_____	_____
タケリ	_____	_____
イソシキ	S63/7-8	
ユリカモメ	_____	
アジサシ	_____	
キシハト	_____	_____
カッコウ	_____鳴き声	H4/9/13 ?
ホトキス	_____鳴き声	
フクロウ	_____	_____
カワセミ	_____	_____
アカゲラ	_____	S61/1/20
コゲラ	_____	_____
ツバメ	_____	_____
イワツバメ	(3/15)_____	
ハクセキレイ	_____	_____
セグロセキレイ	_____	_____
タビハリ	H5/3/13	
キセキレイ	_____	_____
ヒヨドリ	_____	_____
モズ	(7/5)	_____
ヒレンジャク	_____	S54/2
ジョウビタキ	_____	(10/24)_____
アカハラ	H3/4/29	
シロハラ	_____	_____2/22
ツグミ	_____5/9)	(11/14)_____
ウグイス	_____	_____
オオソシキリ	(5/1)_____	
センダングサ	S60/4/29	
エゾビタキ	_____	_____
エナカ	_____	_____
シジュウカラ	_____	_____

ヤマカウラ		S60/10/10
メジロ	-----	(10/24-----
ホシノ	-----	-----
カシラダカ	-----	-----
ミヤマホシノ		S61/2/11
アホシ	-----3/3)	-----
アトリ	H3/3/3	
カラビ	-----	-----
マヒワ	H5/4/11	
ウツ		S61/1/19
イカル	H5/4/24	S61/1/19, S61/2/11
シメ	-----	(11/14-----
スズメ	-----	-----
ムクドリ	-----	-----
コムクドリ		S58/7/31
ハシホソガラス	-----	-----

以上73種です。意外と多くの鳥に出会うことが出来ました。

以下に印象に残った鳥達のことを書き綴ってみました。

<カイツブリ>

池には2-3番が生息しているようで毎年”鳩の浮き巣”を見かけますが、繁殖に成功するのは少数のようです。と言うのも、夏の大雨、台風などでしばしば流されてしまいます。昭和62年にはインデアン模様に入れ墨をした7羽の雛をつれた番を見ました。実にほほえましい光景でありました。その他親子連れとしてはカガモ、ジョウケイ、オハソなどが見られます。

<ツビタビ>

毎年10月初旬から中旬、秋の渡りの際、旅鳥として立ち寄ります。一日中、ツバの梢に止まり、飛んでくる虫を狙って待ちかまえます。3-4日いますが同じ個体かどうか分かりません。春の渡りの時には見かけたことは有りません。

<アトリ>

H3/3/3、大群で飛ぶ。この冬、津市街地でも再三見られました。

<アハラ>

H3/4/29、池の畔にある榎のまわりの地面を飛び跳ねていました。渡りの途中でしょうか。アハラをこの地で見たのはこの時だけです。

<サバ>

4月から8月頃、池の北側の小高い丘の上の松の頂きに1-2羽のサバを見かけることがあります。ピ、クイーとよく通る鳴き声で気づきます。河芸の森の方からやってきます。8月の末に池の上空を4羽で旋回飛行したことがあります。若鳥もいるようで繁殖しているものと思われる。

<オカサ>

昭和60年夏の昼間、拙宅の屋根にドスンと何か落ちる音がし、しばらくしてそれが庭に転がり落ちる気配がしました。庭に出てみるとそれは瀕死のオカサでした。屋根の上を振り返ると鋭い金色の目の鷹がこちらを窺っており、しばらくして飛び去りました。私にはオカサの様に見えました。しかしあまりの衝撃的な出来事に気も動転しており確かでは有りません。オカサはすでにこと切れており、手に取って見ると左の胸部に5センチほどの鋭い切り傷があり、これは深く腹腔から胸腔に達し左肺は外傷性気胸で萎んでおりました。恐

らくは鋭い鷹の爪の一撃によるものと思われ
ます。キハトはその夜、子供達と池の畔に葬
ってやりました。

<イツキ>

昭和63年夏から翌年2月まで東ノ池は護岸工
事にため水を全て抜きました。カゼミの生活圏
が変化してしまうのではないかと心配でしたが、
別の訪問者が現れました。夕方から夜にかけ
てイツキがやってくるようになりました。水の
ない池の底をチョコチョコと餌を探して走り
回ったり、滑空しながらチューリーリーと美
しい声で鳴きました。宵闇の中、池からイツキ
の細い美しい鳴き声を聞くのはとても情緒的
でありました。

<カコウ、ホトリス>

毎年5月中旬の夜、カコウ、ホトリスの鳴き渡
るのを聞きます。時には夜半鳴き声にふと目覚
め「うん、やはり来たな。」と納得すること
もあります。また近くの森に羽を休めている
のか、一夜を鳴き続けることもありました。し
かしこの春の渡りの時期に姿を見ることは有
りません。平成4年9月13日、池の周辺ハゼ
の木に終日遊ぶ一羽のトケン類を見つけまし
た。胸から腹にかけて細い横縞が見られ、餌
を取るとき口を開けると中は真っ赤でした。
一声も鳴かなかったのでトケン類の何である
かは分からず終いでした。秋の渡りの途中立
ち寄ったものと思われま

<ヒロツギ>

昭和52年2月中旬、池の周囲にヒロツギ十数羽
の群れが1週間程度留まりました。北の繁殖地
へ向かう途中立ち寄ったものと思われま

その後十数年現れておりません。

<カゼミ>

何と言ってもこの東ノ池の女王はカゼミです。
背中の華やかなコバルトブルーは魅惑的
です。水面上50センチを鋭くツイー、ツイー
と鳴きながら直線的に飛びます。かと思
うとホバリングして1メートルぐら
いの高さから水面に飛び込み小魚を巧く捕
らえます。多くはお気に入りの池の中の杭
や池の上に倒れかかった木の枝に止まり小
魚、ザリガニの子供を捕らえます。水浴び
も大好きなようですが、これは捕獲に失敗
したときのカムフラージュのためでもあ
るよう見えます。1-2月には2羽が鳴き交
わしながら飛び交い、枝の上で求愛給仕
も認められます。3月には子連れ

の番が飛び交います。そして夏は写真
を撮るのに絶好のシャッター・チャン
スです。池は一面、菱の葉で覆われカ
ゼミが餌を狙える水面は限られてきま
す。そこに適当な止まり木があればカ
ゼミは必ずその木に止まり餌を狙いま
す。写真を撮るには格好の場所とな
ります。近くにテントを張って写真
を撮ったことがあります。約1時間
ごとに行ってきます。夕方になるほど
頻度が高まるようでした。これは
塹にはいる前の腹ごしらえのため
と、夕風で水面が静かになり餌が
狙い易くなるためかと思いま
す。昭和63年の護岸工事後は
しばらく姿を見せなくなり
ましたが、またここ2、3年は
以前と同様に飛び交う姿を
認めます。

<ウ>

これは東ノ池ではありませんが、団地の西は
ずれにある八柱神社に毎年冬来ているよう
です。神社の入り口にある御手洗に、少し
残った雨水を求めてフィ、フィ、フィー
と鳴きながら盛んにやっ
てきます。とても水浴びの
好きな鳥です。

庭にやってくる鳥達

毎年冬になると池に面した裏庭に餌台
を作ります。蜜柑、林檎、向日葵の種、
粟粒などを置きます。また小さな水場
を作ってやります。

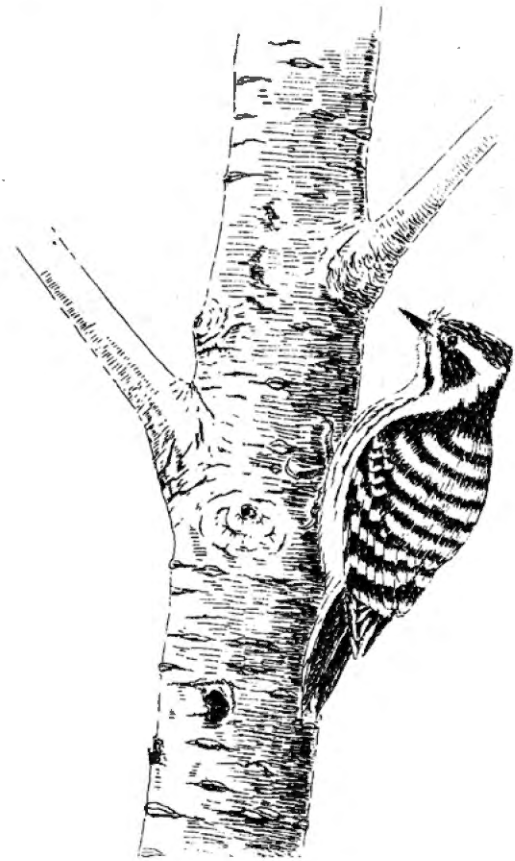
増築した際、自分の部屋の池側に広縁を設けてそこからガラス戸越しに観察しています。まず目敏いのはツノです。番でやってきて蜜柑、林檎をついばみ、椿の花に顔ごとつっこんで蜜を吸います。同じツノ同士でも番が違くと意地悪く追い払います。食事がすむと水浴びです。気持ち良さそうに繰り返します。そのうちツノが気付いてやってきます。ツノより体は大きいのですが気が小さくてツノのいないときに蜜柑や林檎に取り付き、ツノの姿を見ると逃げ出します。

共に人を余り恐がらず、2-3メートルの近くにいるのも平気です。家内などは1メートルの距離に近づいても逃げません。ヒトリが気付くと大変です。ツノもツノも追い払われます。とても意地悪く、しかも大食漢で蜜柑、林檎はあっという間に無くなります。同じ鳥なのですがつい追い払ってしまいたくなります。私がガラス越しに見ていると少し離れた山桜の枝に止まってツノ達が食べているのをじっと見えています。そして時々脅しのために近くまで飛んで来てツノ達を蹴散らして、もとの枝に戻ります。ツノもやってきます。蜜柑、林檎が目当てです。人目を恐がります。

1月も半ばになるとツノが向日葵の種を目当てにやってきます。毎年1羽のことが多いのですが時に雌雄2羽でやってきます。厳つい顔の割に恐がり屋です。

そして餌台の下にはこっそりとやってくるおとなしい鳥達があります。アジは夏の信州で見かけるのとはまるで別人?かと思うほど地味な配色で粟粒を拾っています。ツノは暢気そうに餌を探しては時々頭をもたげて辺りに気を配ります。ツノも地面を警戒心たっぷりに歩きます。人気を察すると一目散に飛び去ります。尾羽根の横端の白い線が目立ちます。そしてとても不思議な事ですが、同じように餌を置いているのに年によって集まる鳥の種類が違います。昭和63年はアジの当たり年で連日向日葵の種を求めて何十羽もが集まりました。餌台で争うこともありました。しかし翌年の冬にはそこに餌がある事を全く忘れてしまったのか、近くの山桜や榎の梢でさえずっているのに餌台の向日葵に気付かれません。

それと逆のことがこの冬見られました。ツノ、ツノ、ツノの集団は毎冬、日に何度も前の雑木林を周回しているのに餌台には目もくれませんでした。しかしこの冬は連日ツノで賑わいました。10から20羽の集団でやってきま



した。水浴びも大好きな鳥です。胸から腹の黒いネクタイは同じ雄どうしでも個体毎に少しづつ違っているようでした。

しかしレン・ハウードの様に個体識別できるほどには観察できません。また今年初めて豚の脂身にも鳥達が関心を示しました。始めはツノが気付いて食べ始めました。始めは塊のままに蜜柑の網袋に入れて銀杏の木に吊るしました。しかし食べ難いようでしたので細く線切りにしてみました。すると網袋から1本づつひっぱりだして旨そうに飲み込みます。2月の終わり頃には向日葵の種よりも豚の脂身の方が美味しいとみえて、激しい取り合いとなりました。赤身の肉がかなり入っていてもさも旨そうに食べるのには驚きました。しかし考えてみれば春には毛虫、青虫を食べてい

るわけで、これと同じつもりなのでしょう。ジウカが食べ出したとほとんど時を同じくして、ミノウケも関心を示し盛んに食べ出したのにも驚きました。果物よりこちらの方が好物と見えました。ウミヒドリも狙っていません。100グラムほどの脂身も1日でなくなってしまいます。来年もジウカ達が餌を忘れないでやってきてくれることを願っております。

鳥から離れますが、平成4年12月より毎晩タヌキが裏庭に現れるようになりました。やや大きめの番と小さい番の4匹です。残り物を出して置くのですが仲良く食べております。互いに出くわしても争うことは有りません。親子なのかも知れません。本年2月の始めになって小さい番の雄が左の後ろ足を怪我でもしたのかびっこを引いてやってくるようになりま

した。傷が悪化しないかと心配しましたが幸い大事に至らず、5月に入って跛行もやや目立たなくなりました。

おわりに、この東ノ池はまだ自然に恵まれ、野鳥や野生動物達が生活できる場所です。ここに住んでみて、昨今の自然破壊、地球環境の汚染に強く懸念を抱きます。何十億年かの時間を費やして作り上げられたこの微妙な地球の環境保護システムを人間がいとも簡単に破壊しております。再生不可能な状況が迫りつつあるように思われてなりません。これからの人間社会のあり方を真剣に考えねばならない時と思っております。

平成5年5月5日

野鳥情報 ・ ・ 1993年 5月～ 6月

05/23	クロハラアジサシ	弥富野鳥園	米倉 静
06/20	ハチクマ2 サシバ4 カワセミ2 オオルリ1	多度町 多度町	水野明紀 水野明紀
06/27	オオルリ1 サンコウチョウ1 ホトトギス1	多度町	水野明紀

探鳥会報告

○玉城町(牛尾崎池周辺) 探鳥会

- ・日時: 1993年 5月16日(日) 晴 09:30~12:00
- ・参加者:

(20名)

- ・担当: 西村幹和、西村泉
- ・観察種: ゴイサギ、アマサギ、ダイサギ、アオサギ、ミサゴ、トビ、キジ、キジバト、カワセミ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス
以上18種

- ・メモ: 五月晴れの空の下、緑のトンネルをぬけると植えたばかりの田んぼが広がっていて、ダイサギ、アマサギが仲良くお食事中・・・。一同レースをまとったダイサギの美しさに見とれてしまいました。

(会員外の人を対象に計画した探鳥会で、新聞にも載せてもらったのに人が集まらずが



っかりしました。でも探鳥会が終わった夕方、問い合わせが2件あり救われた思いがしました。)

○伊勢市内宮周辺（宇治橋前～雲出前）探鳥会

- ・日時：1993年 5月21日（金）晴 09:00～12:00
- ・参加者：

（18名）

- ・担当：吉井瑞穂、林淳子
- ・観察種：ゴイサギ、トビ、キジバト、カワセミ、アオゲラ、コゲラ、キセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、オオルリ、サンコウチョウ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、イカル、スズメ、ハシブトガラス 以上19種
- ・メモ：新緑に囲まれたこのコースは歩くだけでも楽しい。黒、茶、緑といろいろの虫が枝から糸を出してぶら下がっていた。子育て中の親鳥にとっては、またとない場所だろう。でも鳥は少なかった。サンコウチョウの声が2～3声したが、少し遠くて聞いたのは数人だけだった。

○美杉村探鳥会

- ・日時：1993年 5月29日（土）晴 16:30～5月30日（日）
- ・参加者：

（12名）

- ・担当：高橋松人、谷本勢津雄
- ・観察種：オシドリ、トビ、キジバト、アオバト、ジュウイチ、ツツドリ、コノハズク、アオバズク、フクロウ、ヨタカ、アオゲラ、ツバメ、キセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、イカル、スズメ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス（ドバト）以上 25 種
- ・メモ：三重大演習林に10名が集まり、百合さん特製のお握りを食べたり、谷本さんにお茶を入れて頂いたり楽しく過ごしながら、ツツドリ、ヨタカなどの声を聴きました。上の池の水が抜かれていたせいか、今年はアカショウビンの声すら聞こえず、ちょっと残念。国津神社ではあらたに2名加わり、ムササビの飛ぶ姿に一同感激。翌朝は木の上のオシドリをゆっくり観察しました。

○石垣池（鈴鹿市）定例探鳥会

- ・日時：1993年 6月 6日（日）快晴 10:00～12:00
- ・参加者：

（23名）

- ・担当：市川雄二、濱中勝彦
- ・観察種：カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、キジバト、ツバメ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、オオヨシキリ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス 以上 18 種
- ・メモ：梅雨時だというのに素晴らしくよい天気と涼風の中で、多くの新しい友達と共に楽しく過ごすことが出来ました。鳥の種類もまずまずでした。現在カワウ、サギコロニーがある池の西側の松林が枯れてしまう前に、中の島の木が大きくなってほしいですね。アシ

の数が減ってしまいカイツブリの巣が1つしか観察できず、またヒナを背中にしょった姿が見られなかったのが残念でした。

○守田サギコロニー（上野市）探鳥会

- ・日 時：1993年 6月12日（土）晴 18:00～19:30
- ・参加者：
- ・担 当：武田恵世、山中久次
- ・観察種：カワウ、ゴイサギ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、イカルチドリ、ヒバリ、ツバメ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス 以上18種
- ・メ モ：宅地造成と松枯れで営巣が困難なため、今年はすっかり数が減ってしまった。種類こそ6種類と保っているものの、雑木林の中にいる総数は152羽だけとなった。これまでの記録では1990年709羽、'91年748羽、'92年349羽。このコロニー上を素通りするコサギ、アマサギらがあり、上野市街の田端町以外に別の営巣地があるのではと考えられる。

○雨だってへっちら？！五十鈴公園（伊勢市）

- ・日 時：1993年 6月12日（土）晴 09:00～11:20
- ・参加者：33名
- ・担 当：橋本祐子
- ・メ モ：雨が降らなくて残念！においと音を集めよう！シマヘビに興奮！クワの実を味わう。
「私の木（ネイチャーゲームの一つ）」他

○タカ調査と自然観察会・上野市友生（ともの）

- ・日 時：1993年 6月13日（日）曇 09:01～12:00
- ・参加者：
(11名)
- ・担 当：武田恵世、山中久次
- ・観察種：カワウ、ゴイサギ、チュウサギ、コサギ、ハチクマ、オオタカ、サシバ、ハヤブサ、キジ、キジバト、ホトトギス、コゲラC、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイスS、セッカ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、イカルS、スズメ、ハシボソガラス 以上23種
- ・メ モ：集合場所でいきなりサシバとハチクマのお披露目！頭上をハヤブサがかすめたがあまりにもキレのある速さだったので、ごく一部の人しか見られず。また、ため池ではコウホネの黄色い花が咲きほこり、このあたりでは珍しいイシモチソウ（食虫植物）なども見られた。宅地造成が進んでいく中で、タカ4種をはじめ貴重な動植物が観察されたことにより、今後の開発にストップをかけられる重要な資料になったことに間違いはない。

○亀山・水曜探鳥会

- ・日 時：1993年 6月16日（水）晴、涼しい 09:20～11:50
- ・参加者：
- ・担 当：榎原素
- ・観察種：カイツブリ、ゴイサギ、サシバ、コジュケイS、バン、キジバト、カワセミ、コゲラS、ツバメ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、シジュウカラS、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス（ドバト）以上18種

- ・メモ：「鳥の親子」をテーマに行なった。カイツブリとバンのみ親子を確認したが、親子同士のしぐさまでは観察できなかった。

○ひもろぎの里（伊勢市）・平日探鳥会

- ・日時：1993年 6月18日（金） 09:15～11:30
- ・参加者：

（12名）

- ・担当：吉井瑞穂
- ・観察種：ハチクマ、キジバト、アオゲラ、コゲラ、ツバメ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 以上 16 種
- ・メモ：初夏の野草とホトトギスの声。そんなつもりでの探鳥会企画でしたが、野鳥の方はとても少なかった。ハチクマ2羽がゆっくりと上空を旋回するのを見ることができた。

○木曾干拓地・鍋田農地一帯探鳥会（愛知三重合同）

- ・日時：1993年 6月27日（日）雨のち曇 10:00～12:00
- ・参加者：

三重県支部からは8名（合同19名）

- ・担当：水野明紀
- ・観察種：カイツブリ、カワウ、アマサギ、ダイサギ、コサギ、カルガモ、トビ、チュウヒ、キジ、コチドリ、シロチドリ、ケリ、イソシギ、コアジサシ、キジバト、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、オオヨシキリ、セッカ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、（ドバト）以上24種
- ・メモ：今回も弥富野鳥園から車に分乗して、鍋田農地・木曾岬干拓を探鳥しました。

○亀山・水曜探鳥会

- ・日時：1993年7月14日（水）曇 09:20～12:00
- ・参加者：

- ・担当：榎原泰
- ・観察種：カイツブリ、ゴイサギ、アマサギ、ダイサギ、コサギ、カルガモ、コジュケイ、バン、キジバト、コゲラ、ツバメ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、（ドバト）以上22種
- ・メモ：テーマ「鳥の夏の過ごし方」で行ったがハシボソガラスが口を開けているのを観察した。

○木曾岬・鍋田探鳥会

- ・日時：1993年 7月25日（日）雨のち曇 10:00～12:00
- ・参加者：

（18名）

- ・担当：濱中明代
- ・観察種：カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、チュウヒ、ハヤブサ、キジ、バン、コチドリ、ケリ、クサシギ、イソシギ、ツバメチドリ、ウミネコ、コアジサシ、キジバト、ヒバリ、ツバメ、セグロセキレイ、オオヨシキリ、セッカ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、（ドバト）以上31種

- ・メ モ：台風4号という悪条件の中、何か迷鳥が来ていないかと、期待して行ってきました。三重県支部からも新会員が2名参加して、18名でゆっくり観察しました。最初に出たハヤブサがよかったですね。弥富野鳥園にはセイタカシギがいました。

室内例会 野鳥なんでも質問大会

- ・日時：1993年7月18日（日）10:00～12:00
- ・参加者：荒木茂、市川雄二、伊藤豊一、小野千代雄、鹿島素子、木村京子、清水善吉、斎藤謙二、杉浦邦彦、高橋松人、谷本勢津雄、内藤昭子、中村季生、中村誠、西村泉、西村幹和、塗矢博一、橋本富三、橋本祐子、林淳子、前澤昭彦、松田三郎、水野明紀、宮田たつ、三村通雄、三村明子、三村祥子、吉居瑞穂
- ・メ モ：野鳥についての質問にベテランが答えた。野鳥の写真の撮り方、名前の覚え方、屋根裏に巣をつくるムクドリ対策、ジョウビタキの餌付け方、ラムサール条約についてなど多彩だった。展示、販売コーナーも盛況だった。

1993年度 第1回理事会報告

- ・日時：1993年7月18日（日）松阪市産業振興センター

1. 4～6月の反省

来年度、本部から講師を招いて、探鳥会リーダー向け研修会を開く。

2. 日本野鳥の会の販売物について。

注文者に商品を渡す方法など問題が多いので、今年度は以下のようにする。

☆担当は橋本祐子理事

☆一部の図鑑類は在庫を持つ（橋本祐子理事宅と支部事務所）

☆支部の会計とは別にする。日本野鳥の会オリジナル商品については、会員価格で販売すれば多少の利益が支部に入る。

3. 中間収支報告

4. 会計関係の取り扱いについて

5. 田中川河口右岸生物調査について・・・河芸町と契約

6. 支部報「しろちどり」について・・・創刊号の反省

7. バードソンについて・・・今年度は募金での参加にとどめる

8. 野鳥の密猟対策と全国野鳥密猟対策連絡会について

野鳥の密猟についての記録を残していく。全国野鳥密猟連絡会に支部として入会する。

9. 探鳥地マップについて・・・各地区で進めていく

10. その他・・・テグス調査、三重県環境基金協会など、藤前干潟はがき作戦など

ツバメの調査をしました



「この頃ツバメが減ったと思わへん？」
 「本当に減ってるんやろうか？」
 「都市化して住みにくいよって、郊外へ行ったんやない？」
 「支部長が約20年前に全市を調査した結果をお持ちだということで、それと比べたら傾向が分るかも…」

「身近なツバメを調査することで、野鳥や自然の変化に関心を持てるのではないかしら？」

それなら実際に調べてみようーということになって、平日探鳥会の常連に呼び掛けて、ツバメの繁殖調査をしました。
 詳しい調査の結果はまとめているところです。

期 間：1993年 5月～ 7月

場 所：伊勢市内、御園村

調査者：加島隆子、加藤寿美、菊川幸子、小坂里香、下和田幸子、杉浦邦彦、世古口有司、
 中村あい子、西村泉、橋本祐子、林淳子、広八太郎、福村益子、山川尚子、吉居瑞穂

調査の結果、次のようなことに気が付きました。

- 商店街、店舗、病院など人通りが多く、人の出入りの多い所に巣が多い。
- 郊外の住宅地には非常に少ない。
- 全体として、予想よりずっと少ない。



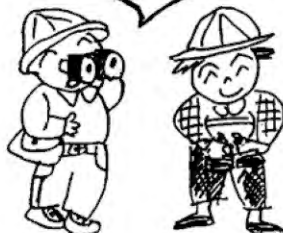
- しめ縄、門灯、蛍光灯の上に多い。
- ツバメのために台が付けてある家が多い。
- 蛇やカラスにやられる巣が多い。
- ある地域では作った巣を次々に放棄した。何故か？
- 今年は春の繁殖に入るのが遅かったように思われる。
- 一番子より二番子の方が数が少ない。
- ツバメのことを年長者はよく知っているが、若い人は無関心。

暑かったけど
 皆んなでやると
 楽しい!

町を歩いていて、こんなに
 ツバメの巣が気になった年は
 なく、自分にとってはよかった。

来年もやります!
 関心のある方
 連絡下さい。

巣の台を作っている家も
 多くあり、古くからツバメを大切に
 している町の人々の心が感じ
 じられた。



昔、河崎の町は軒はみ
 巣があったんですけど、今度歩
 いてみたらほとんどなくて……
 どうしたんでしょう?

お知らせ

- 室内探鳥会—ビデオで東海の野鳥を見る— 9月17日10時 伊勢市立図書館小会議室
- 10月 4,5,6日 タカ渡り探鳥会は中之町交差点付近です。 問合わせ 林
- 10月31日 菅島探鳥会はバードソンとして実施します。集まった寄付金は日本野鳥の会本部へ 送り、出水のツル保護のために使われます。 問合わせ 吉居

(編集：林 淳子、吉居瑞穂 イラスト：今村 楨)

「しろちどり」 1号正誤表

	(誤)	(正)
表紙3行目	鳥の	削除
1P左下から2行目	一九五十年	一九五〇年
4P～7P探鳥会報告		鳥名間のカンマー部欠落

事務連絡

1. 原稿の送付は下記へお願いします。

- ・北勢地区 加藤征甫
(パソコン通信NIFTY-Serve)
- ・伊賀地区 山中久次
- ・津 地区 平井正志
(パソコン通信NIFTY-Serve)
- ・松阪地区 谷本勢津雄
(パソコン通信NIFTY-Serve)
- ・南勢地区 林 淳子

2. カットなどさし絵を募集しています。鉛筆描きでも結構です。

3. 事務所は毎月第1土曜日に集会が行われています(13:00～17:00)。ぜひご出席 ください。

編集後記

なんとも不思議な夏ですねえ。もうすぐ8月も終わるというのに、カッと照りつける太陽の顔を見たためしがありません。「こんな夏には迷鳥が出る可能性が高いんでしょうね」と言ったら、「観察力が無ければ、出ても同じことでしょう」と軽くいなされて、ドテッ!。皆さまの野鳥情報と、「しろちどり」No.2に対する率直なご意見をお待ちします。

表紙(しろちどり)	井土光典
題字	濱田 稔
カット	平井正志、鹿島素子
編集	中村 誠